



ふじさわ体協

「藤沢市体育協会広報」第5号

発行日 昭和62年3月31日
発行・編集 藤沢市体育協会
〒252 藤沢市遠藤3172秋葉台文化体育館内

体協に期待するポイント

社会教育部長 諸節 トミエ

新年の「スポーツ人の集い」にお招きいただいた折、四十年余のキャリアと参会者の多彩な顔ぶれに接し、瞬間「これなら何でも出来るな」と新生体協への期待がふくらみました。現代は「生涯スポーツ時代」とか「スポーツ全面時代」と云われ、また、「スポーツ・フォア・オール」とか「フィットネス」と云う思潮でスポーツが見直され、「健康で文化的な人間生活をめざす市民スポーツの時代」とも云われております。この時機に体協は、これまでの実績であるスポーツ人口の拡大のための普及事業と競技力向上のための諸事業に加え、主体性のある施策を開発されるとの抱負を伺い、新しい事業の創成に大いに期待するものです。そんな折、「体協に入会したいので、その手続きは……」とあるスポーツクラブのリーダーが来庁されました。話を伺ったところ、入会以前に、クラブ組織の再編成が必要と思われたのでそのように口添えしたのでしたが、その際「なぜ体協に入会を……」との質問に対し、「クラブ員の競技

力が向上し、最近、全国大会や国際大会へ出場するチャンスが多くなつて、クラブ員の健康チェックが心配になってきたんです。他のクラブではどうしておられるか、また、大会への派遣費をどう捻出したり、蓄積すればよいか、そんな日常運営についての情報交換が出来たらと思つて……」と云うものでした。このクラブは学校にも、職場にも属さないコミュニティで活動する、小学生から社会人までの混成組織のスポーツクラブで公民館活動から生まれたものでした。今後このようなコミュニティクラブが増加すると思われまますので、これ等のクラブと協会との関係は今後の課題の一つとなりましょう。しかし、ここで注目したいのは、「健康チェック」の問題です。このことが現在、協会で行なわれているのかは存じませんが、「スポーツと健康チェック」は正に今日的課題と思われまます。

一般的な傾向として、スポーツをすれば健康になれると思ひ勝ちで、体力以上の過度の運動をしたり、また、運動即競技種目の練習となつたりして「健康保持と運動の科学」が明快に確立される必要があるように思ひまます。そこで「スポーツと健康チェック」について云えば、
① まずスポーツ人の健康チェック
② 体力に適した運動の質と量
③ 心身の不健康と運動のあり方の三つが考えられますが、当面直接的な問題である①・②が各種目協会の共通課題ではないでしょうか。①については、市でも漸く対応し始めたところですが、まだまだ緒にたばかり、スポーツのキャリア集団であり、健康チェックの名ドクターを会長とする体協だからこそ取り組める課題ではないかと思ひまます。「スポーツと健康チェック」の課題が研究され、その方策が樹立されて協会の主体的な施策に加えられるならばこれこそスポーツ界の快挙であるなあと初夢を見る思いで体協への期待はふくらんでいます。



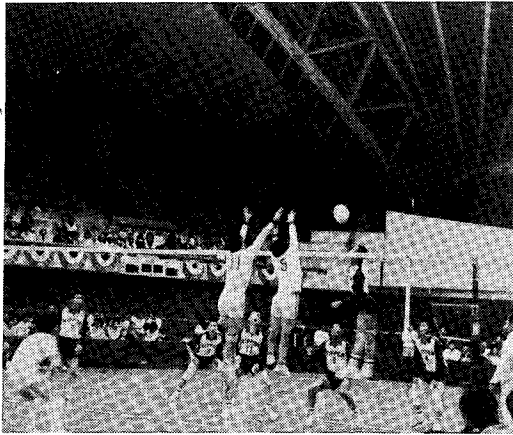
種目協会の横顔

バレーボール協会

市民スポーツとして広く愛好されているバレーボールを今日の隆盛にご協力載きました市民の皆様にかから感謝申し上げます。

我が藤沢バレーは男女青少年をはじめ実業団、家庭婦人の各部に及び全国に冠たる名声を博して居ります事は既に御存知の事でありませう。湖南の優れた生活環境の中に在って、バレーボール競技の特質と申せましようか、市勢（人口）の増加即バレーの普及と家庭内の健康と一家の繁栄に継がると申しても過言ではあるまいと思ひます。又、他都市・地域との交流、更には国際間の親善交流に致しまして、バレー即藤沢と云われる様になつて参りました、その為には秩父宮記念体育館、秋葉台文化体育館をはじめとする市内の体育施設が大きな役目を果してくれて居ります。偕21世紀に向つて藤沢のバレー競技を考えるに、内に在りては地域内（町内・商店街等）社会体育

の自主的運営（体育館の設置と活動）、外に向つては友好親善とバレーボール競技の特性（攻撃・防禦・団結）のチームワーク、特に互譲の精神は他に比することのない精神要素を滋養にすることが出来るのがバレー競技の特性であると思ふのであります。中国をはじめ近隣諸国、環太平洋諸国との親善理解繁栄を積極的に推進し、わずかなりとも国際平和の貢献に努力しなければならぬ。更にバレーボールをよくする者は、他スポーツもよくする、又反対競技によりバレー技術並に精神要素の具備も良い結果を得る事が附記して藤沢市体育協会の発展、更に市民各位のご健勝を祈念して筆を擱きます。



藤沢市選手団大健闘!!

61年度 三浦半島県下駅伝・郡市対抗駅伝

61年度の県下駅伝（三浦半島大会・郡市対抗大会）は、近年の全国的な駅伝・マラソンブームの波を受けて、やや熱を帯びた雰囲気の中開催されました。特に神奈川県は、全国高校駅伝で藤商高が三位、都道府県対抗女子駅伝で県代表チームが優勝するなど、関係者ならびに愛好者とも、意気あがるどころでした。

そんな背景の中、我が藤沢市代表選手団においても、ひととき得意欲の充実が見られました。

緒戦の三浦半島大会は、郡市対抗大会の前哨戦的な意味あいもあり、慎重かつ積極的な作戦のもとに、大会に臨みました。当日は雪のちらつく中、各選手とも充分に実力を発揮し、Aチーム二位、Bチーム四位という総合的に申し分のない結果を納めました。比較的悪いコンディションでのこの成績は、チームとしての安定した力と、次に続く大会への期待を示すものでした。

さて、本番とも言える郡市対抗大会では、三浦半島大会の記録をもとに、高校生、大学生など若手を中心

としたメンバーに加え、女子区には前述の都道府県対抗女子駅伝の優勝の一端を担った、荏田高の島元選手を配し、万全の態勢を整えました。今回大会は、三浦郡が32年ぶりに復帰し、県内26郡市が41回めにして勢揃いするという、冒頭で述べたチームの盛り上がりがかがわれ、レース展開もいきおい白熱したものとなりました。その中でも藤沢市チームは、気力も充分、終始安定した走りを見せ、各中継所を上位グループで通過し、第八位という順位でゴールしました。往年の記録から見るとやや不十分な結果とも言えますが、ここ数年低迷を続けていたことを考えると、今後に向けての明るい材料と言えるでしょう。選手も全体的に若く、監督の熱意とあいまって、藤沢市陸上界の将来性は高いものと思われまます。

第二回スポーツ人の集い開催される

一月二十四日(土)第二回「スポーツ人の集い」が藤沢市民会館小ホールに於いて、市の共催で、体育協会加盟団体はもとより、地区社会体育振興協議会をはじめとする市内スポーツ関係者多数の御参加、御協力を得まして盛大に開催されました。

藤沢スポーツ賞受賞者の御紹介

《功労者》

中丸初男氏

昭和31年藤沢バレーボール協会副会長に就任。35年には会長に就任されました。

氏は、選手として活躍されると共に藤沢のバレーボールの育ての親であり「バレー藤沢」の名声を全国に知らしめました。現在も藤沢市バレーボール協会々長としてスポーツの振興に御尽力いただいております。

《優秀選手》

橋川美紀選手(卓球)

昨年ソウル市において開催された第10回アジア競技大会卓球競技に日本代表として出場。女子団体戦銅メダル、女子ダブルス銅メダル獲得という輝かしい成績を収めました。また、全日本選手権などで毎回上位入賞を果しており、日本卓球界において将来を嘱望されている選手です。

峯田貴宏選手(軟式庭球)
赤堀隆弘選手

二人は現在、市立六会中学校3年に在学中で、市内大会・地区大会県大会を制し、61年度全国中学校軟式庭球大会に出場、個人戦において優勝という素晴らしい成績を収められました。また六会中学軟式庭球部の関東大会準優勝・全国ベスト8進出の原動力としても活躍しました。将来が楽しみなベアです。

河合雅世選手(卓球)

昭和61年度全日本卓球選手権大会カデット(中学1・2年生)の部に出場。昨年度に引き続き2年連続優勝という輝かしい成績を収められました。また、河合選手は昨年度第1回の藤沢スポーツ賞を受賞しており、今回2度目の受賞となりました。

《優秀団体》

藤沢商業高等学校バレーボール部

第18回全国高等学校バレーボール部(春の高校バレー)に出場、圧倒的強さで優勝、今大会5度目の栄誉に輝き、また、第39回全国高校選手権(インターハイ)にも見事優勝し、高校バレー二冠を手にしました。残念ながら国体での優勝は逃したものの「バレー藤沢」の代表選手として素晴らしい成績を収められました。

来年度以降高校バレー三冠王に輝く事を期待します。

武田薬品工業(株)

湘南工場卓球部

昭和61年度全日本卓球選手権大会に出場、女子の部において優勝という素晴らしい成績を収められました。日本リーグでも活躍されており、日本卓球界をリードするチームの一つです。また、市教育委員会主催の少年少女卓球教室等にも積極的に協力し、底辺拡大にも功績を残しています。

藤沢市体育協会々長表彰

第35回全国青年大会出場

女子バレーボール藤沢チーム

このチームは、藤沢市民総合体育大会の結果等から選抜したチームで第37回神奈川県総合体育大会青年の部において優勝し、全国青年大会バレーボール競技の部に出場、6試合すべてにストレート勝ちし、全国47都道府県の頂点に立つ栄光を勝ち取りました。このことは、全国に藤沢のバレーボールを轟かせるとともに、市内におけるバレーボールの普及・振興に大きな功績・足跡を残したと云えるでしょう。

一月二十四日(土)第二回「スポーツ人の集い」が藤沢市民会館小ホールに於いて、市の共催で、体育協会加盟団体はもとより、地区社会体育振興協議会をはじめとする市内スポーツ関係者多数の御参加、御協力を得まして盛大に開催されました。

藤沢商連覇成10th

日大藤沢緒戦飾れず

3月21日にスタートした第18回全国高校選抜バレーボール大会に、本市から藤沢商高と日大藤沢高の2チームが出場しました。

御存知のとおり藤沢商は昨年の覇者であり二年連続6度目の優勝を指しての出場でした。

藤沢商は、一回戦・二回戦を順当に勝ち上がり、準々・準決勝で苦戦を強いられたものの決勝戦に駒を進めました。決勝戦では昨年準優勝の東海大四高にストレートで破れてしまいました。日大藤沢は、一回戦宇部商(山口)に接戦の末破れ、姿を消しました。

準決勝

藤沢商2 | 1美里工(沖繩)

決勝

藤沢商0 | 14 16
5 | 15 3東海大四
7 | 15 (北海道)

一回戦

日大藤沢1 | 2宇部商(山口)

昭和61年度賛助会員

昨年度にひきつづきまして、本体育協会の趣旨を深く御理解いただき御入会くださいまして誠にありがとうございます。多額の浄財と格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

(個人会員ご芳名)(順不同・敬称略)

中山二郎、重原慶健、山本幸男、石井晴、藤田敏太郎、杉山喜一郎、藤田正辰、山口雄司、寺岡武史、瀬川進、久木田善藏、原弘之、土屋保三、榎居祐三、井上吉男、渡辺正洋、関水正文、小菅定雄、大島由起夫、柴崎鉄雄、宮本隆、石井洋秀、関水清、糸井勝治、桜井浅之、小川明、二榎木幸雄、波多野和敬、三保谷修治、吉野久紘、渡辺英一、糸井勝平、岩崎只子、水流栄一、高科明、沢野善治郎、落合四郎、市川弘、河野トモコ、小島正幹、田辺政吉、根岸勇、小林重男、東昭一、斎藤勇、番場定孝、関根智治、浜田徹、服部忠幸、福原徹、坂本良作、安斎久雄、中尾是雄、中島修、唐沢邦之、高橋孝雄、小野隆弘、蔵内隆良、橋之口清己、金田育、高橋一順、加藤賢治、遠藤守、鴻野久雄、木村三男、鈴木恒夫、宮治敬二、中里敏、本間暁一、蝶名林睦、木村克子、飯島勝義、清水久雄、小泉勝彦、木島英夫、木村英勇

沼上正、関根宗四郎、河合美千世、山口幸雄、服部玖三、荒井勝男、山川彦市、中島哲郎、鈴木文治、伊藤喜三郎、上笠秀雄、工藤孝二、水村周治、瀬川宗明、山本敏秋、石井幸夫、新戸利和、鈴木得郎、鈴木一郎、端山正美、鹿島昇、矢部重信、渡辺博美、石原茂起、斉藤久雄、橋本篤治、滝内正敏、中丸初男、高取節男、西島一光、西島淳一、清水和則、薩美秀夫、石田富枝、矢作幸雄、遠藤晋司、瀬戸満里子、竹内真佐子、稲垣智子、由井大、加藤誠、橋本幸俊、温井一光、山田貢、宇野満智子、山崎智昭、桑原隆行、佐藤勝夫、佐藤利昭、畠山正美、小川竹次郎、北代康敏、栗原義夫、尾鷲和重、土屋宏治、熊山喜三郎、石井浪吉、秋元孝行、重田正幸、大原晴夫、宮治政弘、勝呂不三夫、桐野建、高山年正、小野孝一、内田松男、鈴木明夫、平沢信雄、飯島和男

(団体会員ご芳名)(順不同・敬称略)
安齊美、(株)荏原製作所、長谷川忠勤、関東航空計器(株)、オイレス工業(株)、御所見剣心会(志沢久男)、プレス工業(株)卓球部、山武ハネウエル(株)、富士バルブ(株)、伊沢運動具店(伊澤コト)、ドン・スポーツクラブ、藤沢商業高等学校、NOK(株)、双筈会藤沢支

部、遠藤青少年剣道部後援会、関水スポーツ、藤沢市柔道協会、藤沢ロータリークラブ、藤沢北西ロータリークラブ、拳勝館選手会、拳勝館拳和会、少年サッカーチームスカイ・ブルー、藤沢市野球協会、油研工業(株)、藤沢輪業組合長平本昇策、藤沢高校バレーボール部OB会、プレス工業(株)男子バレー部、修武館伊沢道場伊澤俊彦、藤沢市剣道連盟、藤沢市バレーボール家庭婦人連盟、杉山スポーツ、藤沢市ラグビーフットボール協会、藤沢少年剣道クラブ、藤沢市農協剣道部、藤沢信用金庫、池上通信機(株)藤沢工場、荏原製作所サッカー部、ミネベア(株)東京螺子製作所体育部、藤沢市バドミントン協会、藤沢市職員福利厚生会、芙蓉観光(株)

本年度は個人会員一四五名、団体会員三九団体のご加入をいただきました。昭和62年3月31日現在の会員名をここに掲載させていただきます。誠にありがとうございます。

新年度に入り、六十二年度賛助会員を受付けております。皆様の御厚意を賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。

問い合わせ先 藤沢市遠藤三二七二 秋葉台文化体育館内 藤沢市体育協会事務局 四八八一—